

W012 久根鉍山跡



国土地理院 1：25,000 地形図 佐久間

久根鉍山へは浜松市の市街地から国道152号線を北上し、佐久間町大井の大井橋を渡る。西渡の家並みを過ぎてまもなく、左側の眼下に久根鉍山跡がある。

久根鉍山は江戸時代享保年間に開坑されたと言われ、長い歴史を持っていた。明治32年には古川機械金属株式会社が買収した。鉄道が開通するまでは船を使って鉍石を運搬し、天竜川60kmを往復していた。廃坑になってからも鉍山の坑道跡からは酸性の水が流れ出し、石灰で中和してから天竜川に放流している。水質管理のために事務所が設置され、今なお数名の方が働いている。

久根の鉍床は、別子銅山（愛媛県）や日立鉍山（茨城県）と同じ層状含銅硫化鉄鉍床でキースラーガーとも呼ばれ、三波川帯の変成岩に層状ないしレンズ状に挟まれている。このタイプの鉍床からは黄銅鉍・磁硫鉄鉍・黄鉄鉍・閃亜鉛鉍などが採掘される。成因は、海底で噴出する熱水が鉍床を形成し、熱水鉍床がさらに変成作用を受けたものとされる。（写真：今村守孝 本文：加藤国雄）